

【教育学研究科】

○教育学研究科における教員養成の理念・目的

1 理念・目的

島根大学大学院教育学研究科（以下、「教職大学院」という）は、山陰地域における唯一の教員養成系大学院として、島根大学憲章に基づき、現代社会・地域社会の有する教育課題を解決することのできる高度の専門的能力及び優れた資質を有する教師の養成を設置の目的としている。

このため、学生が深い学識、卓越した教育実践力を身につけることができるよう、教育に関する多様な学問分野の教育実践研究を、地域の教育課題に立脚しながら進めるとともに、その成果を広く社会に還元し、山陰地域の教育力向上に貢献することを目指す。

2 教育目標と養成像

教職大学院は、山陰地域の学校教育現場が有する教育課題に対応することができる高い総合力を有した「学び続ける教師」「スクールリーダー」を養成することを教育目標とする。特に、現職教員学生と学部新卒学生が協働で授業展開することを特色としており、それぞれの教育目標（養成像）については、以下のように設定している。

<現職教員学生の養成像>

○学校創造、授業デザイン、子ども支援などの教育諸課題に対応する高度な教育実践力を持つ教師

○高い企画力・調整力やコミュニケーション力によって、学校や地域の諸課題解決を組織的に主導できる総合的力量を持ったスクールリーダーとしての教師

<学部新卒学生の養成像>

○学校創造、授業デザイン、子ども支援などの教育諸課題に対応する基本的実践力を持つ新人教師

○学校チームの一員として多様な協働に参画し、即戦力として貢献できる新人教師

これらの教育目標（養成像）は、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会をはじめとする地域社会との協働の場（山陰教師教育コンソーシアム）を通じて、今後も常に探究・共有することに努める。

3 教育計画

教職大学院では、理論と実践の往還を通して、地域の教育課題を解決するのに必要な探究的省察力をもつ「学び続ける教師」を育成するべく、次のように体系化された教育課程としている。

- ① 「学び続ける教師」に必要な資質・能力として、学校創造力、授業デザイン力、子ども支援力の3つを定め、これらをより高いレベルで身につけたスクールリーダーの養成を目標とした教育課程とした。また、3つの力を内容面から相互に関連づけ、特に山陰における教師の生涯発達を支える基盤となるよう「山陰の教育課題」「エビデンスの収集・活用」「クリティカル・シンキング」「個と多様性」「ICT活用」の5つの共通テーマ軸を設定している。
- ② 共通科目及び選択科目においては、学校教育研究の理論と方法を修得する。総合的力を形成するため、「基盤科目」「学校創造科目」「授業デザイン科目」「子ども支援科目」を設定している。また、選択科目群として設定した「学校創造科目」「授業デザイン科目」「子ども支援科目」の3つの科目群のいずれかに特化して履修することにより、求められている教育課題の解決や自らの課題意識等に特化した力量を身につけることが可能な教育課程としている。

授業方法には、事例研究やワークショップ、附属学校や実習校での授業参観などを多く取り入れ、具体的な教育課題に即した双方向的な学び、主体的かつ体験的な学びとなるよう留意している。

また、研究者教員と実務家教員の協働、現職教員学生と学部新卒学生との協働により、多様な視点にふれながら、理論と実践を往還できる教育課程となっている。
- ③ 課題研究では、学んだ理論を地域教育課題の探究と解決に向けてどのように活かせばよいかについて、自ら設定した研究テーマに即して先行研究の収集・分析を行ったり、必要な予備調査等を行ったりすることとしている。

また、これと連動して行われる実習科目では、実際の学校教育現場をフィールドとして、仮説に基づく授業や教育活動を計画的に試行する。得られた結果については、課題研究科目において多角的に討議・省察を行い、学びの成果の集大成として報告書を作成する。さらに、地域社会の代表である山陰教師教育コンソーシアムにおいて、この報告書に基づく成果を発表し、そこでの意見交換を通じて自らの教育観の深化を図る。
- ④ 各科目の学修成果は、試験や課題等の成績及び取り組み状況等を考慮し、到達目標の達成度に応じて評価する。到達目標や成績評価の方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示している。

3.1 教育課程の特色

教職大学院の教育課程には以下の特色がある。これらを総合的に学修することにより、教職大学院の理念と目的の達成を目指している。

〈教育課程の特色〉

- 山陰地域の教育課題をふまえた教育課程
- 求められるスクールリーダー像「学び続ける教師」をふまえた教育課程
- 「総合力」の高いスクールリーダーを育成する教育課程

- 理論と実践の融合を目指した教育課程
- 現職教員学生と学部新卒学生の協働による学び
- 実務家教員と研究者教員の協働による指導体制
- 多彩なアクティブ・ラーニングによる「考える」授業の展開

3.2 質保障としての山陰教師教育コンソーシアム

山陰教師教育コンソーシアムは、島根大学と島根県教育委員会、鳥取県教育委員会との連携を推進・強化し、教員養成から教員研修までの教育・研修システムを構築することにより、地域や学校の現代的な教育課題に対応しつつ地域の教育力向上に資する教師を育成することを目的として設置された、教職大学院の教員養成プログラムへの助言・提言を行うとともに、その評価機関としての役割を担う組織である。

山陰教師教育コンソーシアムの会議（連携協力推進協議会、教育活動評価委員会）の中で教育委員会や地域が求める教職大学院での授業のあり方について積極的に意見を求めたり、実際に教職大学院での授業視察なども行ったりしながら、教育課程の改善・充実を図っている。また、教職大学院の教育課程には、講義で学んだ教育理論と実習で行った実践とを結びつけ、学修の集大成として各自が設定した「研究テーマ」に基づく教育実践研究の報告書を作成する「課題研究科目」が設定されている。この教育実践研究の報告会（発表会）に山陰教師教育コンソーシアム委員が参画し、教育実践研究の成果に対する外部評価を受けることを、教育課程全体への質保証の要として位置付けている。

○専攻における教職課程の設置趣旨

【教育学研究科教育実践開発専攻（教職大学院）】

○幼稚園教諭専修免許

本専攻は、教職大学院としてより高いレベルでの教員としての資質・能力を身につけさせることを目的とした専攻であり、高度な教職専門性を身につけた幼稚園教諭を養成することは本専攻の責務である。

○小学校教諭専修免許状

本専攻は、教職大学院としてより高いレベルでの教員としての資質・能力を身につけさせることを目的とした専攻であり、高度な教職専門性を身につけた小学校教諭を養成することは本専攻の責務である。

○中学校教諭専修免許状

（国語、英語、社会、数学、理科、家庭、技術、保健体育、保健、美術、音楽）

本専攻は、教職大学院としてより高いレベルでの教員としての資質・能力を身につけさせることを目的とした専攻であり、高度な教職専門性と各教科に関する高度な専門的知識等を身につけた中学校教諭を養成することは本専攻の責務である。

○高等学校教諭専修免許状

(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 農業, 工業, 商業, 水産, 商船, 福祉, 英語, 情報)

本専攻は, 教職大学院としてより高いレベルでの教員としての資質・能力を身につけさせることを目的とした専攻であり, 高度な教職専門性と各教科に関する高度な専門的知識等を持つ高等学校教諭を養成することは本専攻の責務である。

○特別支援学校教諭専修免許状

(知的障害者に関する教育, 肢体不自由者に関する教育, 病弱者に関する教育)

本専攻は, 教職大学院としてより高いレベルでの教員としての資質・能力を身につけさせることを目的とした専攻であり, 高度な教職専門性と特別支援教育に関する高度な専門的知識を身につけた特別支援学校教諭を養成することは本専攻の責務である。